

死者500人超す

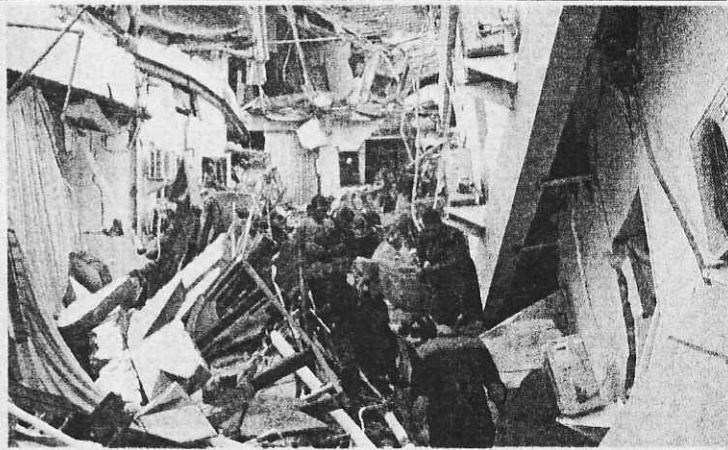
数千人の恐れ M6.8余震発生

【パダン共同】淵野新【1】9月30日発生したインドネシア・スマトラ島沖を震源とするマグニチュード(M)7.6の地震で、同国社会省は1日、死者が531人に達したことを明らかにした。ロイター通信によると、同国保健省当局者は、死者が数千人に上る恐れがあるとの見方を示した。(11面に関連記事)

はこれまでに震源地に近い西スマトラ州パダン市内と周辺地域で364人が死亡、2177人が重軽傷を負ったとしており、死者数に關する情報は錯綜している。スマトラ島メダンの日本総領事館によると、パダンに滞在していたとみられる日本人の男性2人と女性1人の計3人と1日夜現在、連絡が取れず、所在、連絡が取れず、所

在確認を急いでいる。総領事館は同日午前、地震発生当時、西スマトラ州にいた日本人18人全員の無事を確認したとしていたが、3人についてはその後、日本の親族から問い合わせがあった。また、米地質調査所(USGS)によると、スマトラ島南部で1日午前、M6.8の余震とみられる地震があった。

倒壊したビルや家屋は少なくとも500棟とみられる。市内の二つのホテルや病院、学校も倒壊しており、多数が生き埋めになって救助を待っていると思われる。インドネシア政府は1日、援助物資の空輸など緊急支援を本格化、被害の全体状況の把握を急いでいる。DPA通信によると政府は同日午前、C130



1日、インドネシア・スマトラ島のパダンで、地震のため倒壊した建物から犠牲者を運ぶ兵士ら(ロイター=共同)

輸送機2機で医師のほか、医薬品、食料、テントなどの救援物資をパダンに搬送した。しかし、地震の影響により電気や水道が停

止し電話回線もほぼ不通のため、政府は被害の全体像を確認できていない。

ユドヨノ大統領は1日午後、パダン入りし、ホテルと学校の倒壊現場を視察。被災者を励ますとともに救助作業を急ぐよう指示した。

被災者支援 医師ら派遣

AMDA

スマトラ島沖を震源とする地震の被災者支援のため、国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市)は1日、医師と調整員の計2人を派遣した。

AMDA多国籍医師団上級顧問の津曲兼司医師(52)と作業療法士の光島宏美調整員(31)。現地でインドネシア支部の医師、看護師らと合流。2日から医療拠点の整備、情報収集などに努める。

津曲医師は「迅速な外科的処置とともに、一刻も早い医療システ

ムの構築を図りたい」と話した。AMDAは状況に応じて追加派遣を検討する。(伊丹友香)